

○ばら教室 KANI 令和7年5月27日

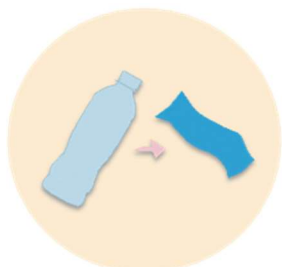
可児市は製造業が盛んなことから、フィリピンやブラジルなどたくさんの外国籍市民が住んでいます。そのため、文化や習慣などの相互の理解を深め、共に安心して暮らせる地域社会の形成をめざしています。

日本の小・中学校に初めて就学する日本語指導が必要な外国籍児童生徒が通う「ばら教室 KANI」において、市職員がカーボンニュートラル実現に向けた「ボトル to ボトル」水平リサイクル事業の啓発授業を行いました。

ー啓発授業を受ける子どもたちのようすー



「なぜリサイクルが必要なの?」「資源には限りがあって、使えば使うほど少なくなり、いつかはなくなってしまうよ」「リサイクルすれば、ごみを減らし新しく使う資源も少なくできるよ!」など、日本のリサイクルのようすを知ってもらったところで「ボトル to ボトル」のやり方をお話しました。



キャップをとり、
ラベルをはがす



中をすすぐ



回収ボックスへ



実際にペットボトルを使って、「キャップをとる・ラベルをはがす」→「すすぐ」→「回収ボックスへ入れる」3ステップを皆さんに体験してもらいました。



最後に、授業で勉強した内容をクイズにして出題しました。

①日本のペットボトルの率は約 85%以上ですが、「ボトル to ボトル」リサイクルされているのはどれだけ？

A : 約 80% B : 約 50% C : 約 20%

②ペットボトルの回収方法で正しいのは？

A : キャップやラベルをつけたままで回収ボックスに入れる B : 中をすすぐ C : ごみ箱へ入れる



みなさん正解でした。（答え①：C ②：B）素晴らしいです。



ばら教室のみなさん、ありがとうございました。